

- *ピリピの教会はパウロが生活や伝道のために必要な資金や物資をよくパウロのもとに送って支援していた。それが何らかの理由で途絶えていたが、今エパフロデトという弟子がやってきて贈り物が届けられた。パウロはローマの獄中にいて正直ほっとし、喜んだ。（ピリピ4：10、14～16参照）
- *しかし、パウロは「乏しいからこう言うのではありません。私はどんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも貧しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。」（4：11～12）実際にパウロは自身両方の境遇を経験してきた。私たちは、貧しい時、困窮の時、心が卑屈になったり、悲観したり、或いは悪いことを考えたりし勝ちである。また、反対に有り余る物があり、裕福な時には、謙虚さを失い、傲慢になり、更に欲が強くなる。乏しい時も、豊かな時にも対処が必要である。
- *その秘訣は「満ち足りる」ということ。言い換えるならば、どんな状況でも、その状況を受け入れることである。「主は私の羊飼い。私は乏しいことはありません。」（詩篇23：1）という信仰である。貧しいときでも恨んだり嘆いたりするのではなく、受け入れよう。富んでいても自慢するのではなく、神に感謝を持って受け入れよう。どんな状況であっても神のご意志で私を今の状態に置いてくださっているからである。
- *「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」（4：13）よみがえられた主イエス・キリストによってそのいのちと力が信じる私の中に与えられるから、私の力はどんな弱くても、主イエスが強くしてくださるのである。（Ⅱコリント12：9～10）神は憐れみ深いお方。私たちの必要は必ず満たしてくださる。天の栄光の富をイエス・キリストと共に地上に下ろし、私たちがそれを受けることができるようになってくださっているのである。